

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38 39	BCP策定にあたり、隣接の特養編は法人主導で完成している。グループホーム分も、法人主導で作成途中。作成後は、よりグループホームの現状に合わせ、現実的なものへと適宜、改定を進めなくてはならない。感染症分野は通常の感染予防に加えコロナ禍を経て、職員全体がほぼ理解できているが、自然災害などについては、足りない知識・情報も多いと思われる。	法人主導でこれから完成するBCPIに対し、職員全員が当事者目線で関り、グループホームの為に、より現実に則した内容で実践できるよう検討し、討議、協議を繰り返していけるようになる。	防災・BCP関連研修には、順に職員に参加してもらおう。より多くの方々と意見交換など行い、情報収集に努め事業所に持ち帰り、常に最新の情報に敏感に施設内で活発な意見交換を行う。これに関しては、原則期限はなく、スパイラルアップしながら、より良く改定していく。まずは、活発な意見交換をできる環境作りに取り組む。	12ヶ月
2	6 7	『高齢者虐待防止』や『身体的拘束』については、職員全員が、頭で理解している。職員が自身の中で忙しさを作り出し、つい間違ったコミュニケーションを行う時がある。毎年の研修ではこの種の自己反省が必ず聞かれる。また、無意識でスピーチロックしている場合もある。	虐待や拘束のない入居者様にとり心地よい生活その生活に職員が共に寄り添うため、スピーチロック廃止に向けての取り組みを行い、最終はスピーチロックゼロを目指す。	身体拘束等適正化委員会において、スピーチロックをなくすという目標を掲げ、言葉かけの事例を職員同士で考え事例集を作成、検討・見直しを繰り返す。 繰り返すことにより、スピーチロックしないコミュニケーションが普通の事になるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。